

おはようございます。今年度1年間の締めくくり、最終日を迎えました。

先日まん延防止等重点措置が解除されましたが、この修了式は予定通りオンラインで実施することとしました。ようやく多少なりとも日常的な学校生活が取り戻せる見通しが立ちましたが、春休みになってしまいました。4月からは通常の学校生活を送れることを祈るばかりです。特に3年生は、真新しい後期課程校舎でのスタートに、期待で胸が膨らみます。年度末なので、ここで今年1年を振り返っておいて、来たる新年度のスタートに期待を持って臨みたいと思います。

思い返せばこの1年も、コロナに始まりコロナに終わる、そんな1年でしたね。一昨年のような全国一斉臨時休校こそありませんでしたが、オンラインを併用する授業が当たり前になりました。と言っても、さいたま市立の学校で、MOIS ほどオンライン授業を実施している学校はありません。本校は多くの中学校と異なり、生徒が市内全域から通学しており、公共交通機関を利用している生徒も多いことから、他の市立学校より一段と高い感染防止対策で臨んで来ました。そのため Club Activities を自粛したり、給食を中止したりして、皆さんには残念な思いを抱かせてしまうことも少なくありませんでした。

しかしその効果はハッキリと現れていて、少し前までの統計データですが紹介します。今年度4月1日から3月7日までの市立学校における陽性者数は、教育委員会に報告があった人数で8,832人だったそうです。年度初めの全児童・生徒数103,362人で割ると、感染率は約8.5%です。そのうち今年に入ってから感染者が実に9割近い7,860人で、感染率は7.6%です。MOISでは、4月からの陽性者数は13人で、年度初めの生徒数は479人ですから、感染率は約2.7%であり、今年に入ってから感染者は9人で、感染率は1.9%です。大した違いは無いと感じるかもしれませんが、4月からで1/3以下、今年に入ってから1/4です。しかも校内での感染はゼロです。MOIS生からMOIS生への感染はありませんでした。もちろん、学級閉鎖も一度もありませんでした。

言い換えれば、もし他校と同じレベルの対応で済ませていたら、少なくとも3~4倍の陽性者が出ていた可能性があるし、少なくとも校内での感染拡大があった可能性があります。通学範囲や通学方法を考えると、さらに多くの生徒が感染していた可能性もあります。この結果は、MOISの対応の成果であると同時に、言うまでもなく生徒の皆さんの心掛けと行動、そして先生方の日々の努力によるものです。ありがとうございました。お疲れさまでした。新年度新学期も油断せずに、状況に応じて対応していきたいと思います。同時に、今のような感染状況が長引けば、その中でも Club Activities や給食を実施していくことを考えなければならなくなるかも知れません。

さて、次に「新年度新学期も油断せずに」やっていくために、去年の春はどうだったか振り返ってみましょう。去年のこの時期も、1月8日に発出された緊急事態宣言が二度に渡って延長され、3月21日にようやく宣言が解除されて、修了式を迎えました。今年は1月21日に適用されたまん延防止等重点措置が、やはり二度に渡って延長され、奇しくも去

年と同じく 3 月 21 日に解除されました。感染拡大が、同じようなサイクルで繰り返しているのを感じます。

少し違うのは、昨年 3 月 21 日の 1 日当たりの新規感染者数は、埼玉県で 79 人、全国で 1,118 人でしたが、今年 3 月 21 日は、埼玉県で 2,984 人、全国で 27,566 人だったことです。この人数は、昨年 8 月中旬に第 5 波がピークを迎えた日の人数を、埼玉県でも全国でも上回っているのです。明らかに、打ち寄せる度に波が大きくなっているし、解除時点での感染拡大状況も異なっていると言えます。

(以下の内容は修了式では話しませんでした、今後の感染再拡大に備える上で無視できない事実なので、ここで紹介しておきます。)

昨年の感染状況は 3 月 21 日の解除後、春から夏にかけてどういう展開を辿ったのか、嫌でたまらないけれども振り返ってみます。第 3 波による埼玉県の緊急事態宣言が 3 月 21 日に解除された 1 ヶ月後の 4 月 20 日に、第 4 波によるまん延防止等重点措置がさいたま市に適用されました。この日の埼玉県の新規感染者数は 207 人、全国では 4,335 人でした。今回の解除時点に比べて、県内では 14 分の 1 に過ぎません。その後、感染拡大状況はやや穏やかになりましたが、まん延防止等重点措置は解除されず、4 回の延長の後、8 月 2 日に緊急事態宣言の発出を迎えました。この日の埼玉県の新規感染者数は 762 人、全国では 8,477 人でした。そして 8 月 19 日の埼玉県 2,169 人、20 日の全国 25,992 人をピークに、徐々に感染拡大は沈静化して行き、9 月 30 日に全国の全ての緊急事態宣言が解除されました。この日の新規感染者数は、埼玉県 94 人、全国 1,575 人でした。第 5 波の終息でした。

昨年 1 月 8 日から 3 月 21 日の間の第 3 波による緊急事態宣言下での新規感染者数は、埼玉県で 15,268 人、全国で 189,557 人でしたが、4 月 20 日から 9 月 30 日の間の第 4 波と第 5 波によるまん延防止等重点措置及び緊急事態宣言下での新規感染者数は、埼玉県で 79,099 人、全国で 1,167,280 人でした。さらに今回、1 月 21 日から 3 月 21 日の間の第 6 波によるまん延防止等重点措置下での新規感染者数は、埼玉県で 264,371 人、全国で 4,110,983 人でした。昨年冬の第 3 波による緊急事態宣言下に比べ、埼玉県で 17 倍以上、全国で 21 倍以上です。

(以上の内容は修了式では話しませんでした、今後の感染再拡大に備える上で無視できない事実なので、ここで紹介しました。)

では、この第 6 波の状況において、世界各国の感染状況はどうなっているのでしょうか？ 例えばロシアではどうでしょう？ ロシアでの 1 日当たりの新規感染者数は、1 月 21 日に約 5 万人(49,127 人)でしたが、2 月 11 日のピーク時には約 20 万人(202,211 人)まで増加した後、徐々に減少し、直近 30 日間では 2 月 20 日の約 17 万人(168,399 人)から 3 月 21 日の約 3 万人(28,342 人)へと減少しました。

また例えばウクライナではどうでしょう？ ウクライナでの 1 日当たりの新規感染者数

は、1月21日に約2万人(20,542人)でしたが、2月4日のピーク時には約4万5千人(45,022人)まで増加した後、徐々に減少し、直近30日間では2月20日の約2万人(19,748人)から3月21日の0人へと減少しました。ウクライナでは、2月24日に27,538人と発表されたのを最後に、一人の新規感染者数も発表されていません。皆さん、これがどういうことだか分かりますよね？

戦時下にある両国ですが、安全な首都モスクワから軍事的侵攻を命じてウクライナ領内に攻め込み、数千発のミサイルを撃ち込み、多くの民間人を殺害しているとされるロシア軍と、少なくとも340万人が国内各地から隣国などへの避難を余儀なくされ、それさえも叶わぬまま次々と命を奪われていくウクライナ国民の日常の違いは、こんなところにも表れているのです。コロナどころじゃない、感染者数の統計を取っている場合じゃない。ウクライナにおけるここ1カ月間の人的統計は、いたましくも「一般市民の戦死者数」です。

60年も生きてると、武力行使を伴う国際紛争の報道には、これまでも幾度となく接して来ましたが、今回のロシアによるウクライナ侵攻という、大国と周辺国との間の「戦争」は、余りにも理不尽で、憤懣遣る方無い(ふんまんやるかたない)思いであり、それに対して何一つできずにいる自分を省みるにつけ、慙愧に堪え(ざんきにたえ)ません。

世界中で解決困難な問題が起こっています。何とかしたい、誰もがそう思っても、決して簡単じゃない。どんなに考えても頑張っても思い通りにならないことは、日常生活にも、広く世の中にも常に数多くあります。でも、だからと言って諦めてしまったり、人任せにしまったりしては、決してよりよい未来にはなりません。

MOIS初の体育的行事も、当日2日間の雨と雪で計画を変更しての実施となりました。それでも生徒の皆さんと先生方とで工夫して、楽しく過ごすイベントができましたよね。そんな身近なことからでいいのです。自分の未来と、そこに繋がる世界の未来のために、これから自分は何を為すべきなのか、この春休みでぜひ考えてみてください。そのための皆さんへのアドバイスを一つ。去年の修了式でもお話ししたことです。

「休養」や「余暇の遊び」という意味の「レクリエーション」は、re+create+ionであって、「つくる、創造する」というcreateの頭に、「再び」とか「やり直す」という意味のreが付き、お尻にionが付いて名詞になったものだとお話ししました。つまり、「休養」や「遊び」は、「再び創る」「改めて創造する」と同じ意味なのだと。明日から4月6日まで、その「レクリエーション」の時を十分に過ごしてください。

残念ながら先生方は、4月7日以降の新年度新学期に向けて、「休養」や「余暇の遊び」という意味の「レクリエーション」を味わうことは難しい現実があります。むしろ「再び創る」「改めて創造する」という意味の「レクリエーション」に邁進しなければなりません。そんな先生方に、皆さんの「レクリエーション」自慢を聴かせてください。

コロナも戦争も心配の種は尽きないけれども、今はただ、4月7日に皆さん全員が元気に登校できて再会できることを、心から祈っています。それまで、くれぐれもお元気で。